

# MUSEUM NEWS

2020.4 ▶ 2020.5

新型コロナウイルス拡散防止の観点から、記載されている展覧会、イベントについて、延期や中止などの措置をとる可能性があります。必ず事前に当館ホームページをご確認ください。

## New Photographic Objects 写真と映像の物質性

とき・4/4(土)～5/17(日)

ところ・2階展示室

出品作家・迫鉄平、滝沢広、Nerhol、牧野貴、横田大輔

内容・デジタル技術が加速的に発展し社会に浸透した現代において、写真や映像という表現形態を選んだアーティストたちは、動画像編集ソフトによる加工や合成、コピーやスキャニング、さまざまな出力方法を用いたインスタレーション、ソーシャルメディアやフォトシェアリング・プラットフォームを利用した双方向的な手法などを複合的に駆使して、その表現言語を更新し続けています。新しいテクノロジーから伝統的な手法までがひろく選択可能性に開かれた状況から、写真と映像の可能性を拡張する意欲的な表現が次々に生まれるスリリングな場に、私たちは立ち会っているのです。

この展覧会で紹介する4名と1組のアーティストは、こうした状況をふまえて、メディアの物質性を重視した独自のアプローチによってこの分野に新規軸を打ち出しています。彼らの作品をラディカルな再考と更新をめざす「新しい写真的なオブジェクト」と指定し、著しい速度で変化する現代の写真表現・映像表現の一断面をとらえます。

観覧料・一般1100円(880円)、大高生880円(710円)

※( )内は20名以上の団体料金。中学生以下と障害者手帳をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料。併せてMOMASコレクションもご覧いただけます。

《関連イベント》

○迫鉄平 全映像作品 2013-2019 上映会

とき・4/11(土)11:00～17:00(途中入退場自由)

ところ・2階講堂 / 定員・70名 / 料金・無料

ゲスト・THE COPY TRAVELERS(加納俊輔、上田良)、高橋耕平(美術家)、西田博至(批評家、『アラザル』同人)、福尾匠(映像論研究者)  
内容・全映像作品の上映と並行して、1時間ごとにゲストを迎えてのトークを行います。

○牧野貴 スクリーニング&トーク

とき・4/12(日)14:00～17:00(開場は30分前)

ところ・2階講堂 / 定員・70名(当日先着順) / 料金・無料

内容・映像上映+ライブと作家によるアフタートークです。

○牧野貴 ワークショップ「宇宙の構造 コラージュ制作とフィルム制作を通じて」※事前申込制

①「音のスケッチ・コラージュ」

とき・4/18(土)13:00～17:00/定員・15名/料金・無料

②「16mmフィルムによる光と音の制作」

とき・4/19(日)13:00～17:00/定員・15名/料金・無料

内容・自分自身と世界の間を理解し、想像力や表現力を拡張していくための方法とアイデアを獲得するためのワークショップ。映像制作の専門知識の有無は問いませんが、映像表現・音楽表現に関心があり、表現をしたいと考えている人に向けたプログラムです。詳細および申込方法は当館ホームページをご覧ください。

○クロストーク 滝沢広×原田裕規(美術家)

とき・4/25(土)15:00～16:30(開場は30分前)

ところ・2階講堂 / 定員・70名(当日先着順) / 料金・無料

○Nerhol ラウンドトーク

とき・5/16(土)15:00～16:30(開場は30分前)

ところ・2階講堂 / 定員・70名(当日先着順) / 登壇者・Nerhol(田中義久、飯田竜太)、鈴木俊晴(豊田市美術館学芸員)、榊田倫広(東京国立近代美術館主任研究員)、大浦周(当館学芸員)

料金・無料

(表面について)

この号の表面は「New Photographic Objects」展の出品作家の作品図版をトリミングした画像で構成しています。複雑な事後加工による抽象映像のキャプチャ画像、積み重ねた写真をカッターで彫り込んだ作品表面のクローズアップ、写真をハンドスキャナーで強引に読み込むことで歪んだイメージ…。写真と映像による表現言語の多様化を反映するように、ここで掲載している作品の材質や形状もまちまちです。トリミングによってそれを判別するための情報も欠けてしまいますが、メディアや手法の違いをこえてそれぞれの作品に通底する共通点もまた浮かび上がってくるのではないのでしょうか。この4名と1組のアーティストで物質性をテーマとした展覧会を行う意義も、ヴィジュアルに伝わるのではと期待しています。(I.O.)  
画像キャプション(いずれも部分、上から順に) 牧野貴《CINÉMA CONCRET》2016年、映像©Takashi Makino / 横田大輔《Untitled》2019年、PVCにUVダイレクトプリント、鉄釘 / Nerhol《First Bon》2019年、インクジェット・プリント©Nerhol, Courtesy of YKG/Yutaka Kikutake Gallery / 滝沢広《AVALANCHE #28》2019年、アーカイバル・ピグメント・プリント©Hiroshi Takizawa, Courtesy of rin art association / 迫鉄平《Fools Gold #6》2019年、シルクスクリーン

アート体感ワークショップ

## MOMAS のとびら

とき・各回とも13:30～15:00

費用・『親子クルーズ(MOMASコレクション)』は500円。その他無料。

申込方法・館内配布の申込用紙により直接又はFAXでお申し込みいただくか、ホームページからお申し込みください。

5月分のお申込みを4/1(水)から受け付けます。

5/2(土)フリープログラム[どなたでも]※申込不要

5/9(土)みる+つくる(企画展物語)[小・中学生]

5/16(土)彫刻あらいぐま[小・中学生+保護者]

5/23(土)みる+つくる(MOMASコレクション)

[小・中学生]

6月分のお申込みを5/1(金)から受け付けます。

6/6(土)み〜っけ! [未就学児+保護者]

6/13(土)フリープログラム[どなたでも]※申込不要

6/27(土)親子クルーズ(MOMASコレクション)

[小・中学生+保護者]

## MOMAS コレクション(収蔵品展)

2019年度 第4期

とき・2/8(土)～4/19(日) / ところ・1階展示室

観覧料・一般200円(120円)、大高生100円(60円)

※( )内は20名以上の団体料金。中学生以下と障害者手帳をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料。  
※会期中の毎日14時から、美術館サポーター(ガイド・ボランティア)が展示作品について解説します。

◇セレクション:シャガールとか佐伯祐三とか

◇サポーターズ・チョイス!

◇春陽会一旗揚げのころ

《関連イベント》

○サンデー・トーク

内容・展示担当者が「サポーターズ・チョイス!」のコーナーについて解説します。

費用・MOMAS コレクション観覧料が必要です。

とき・4/19(日)15:00～15:30 / 担当学芸員・喜多春月

2020年度 第1期

とき・4/25(土)～7/12(日) / ところ・1階展示室

観覧料・第4期の観覧料と同一です。

※4月25日(土)、4月26日(日)を除く会期中の毎日14時から、美術館サポーター(ガイド・ボランティア)が展示作品について解説します。

◇セレクション

印象派の画家オーギュスト・ルノワールなどの西洋近代絵画に、日本近代絵画を交えてコレクションを紹介いたします。

◇特集:斎藤与里

個性的な画風を追究し、美術評論でも足跡を残した加須市出身の洋画家・斎藤与里(1885-1959)。当館のコレクションを中心に紹介し、多面的な画業をひもときます。

◇写真という欲望

フォトグラムやコラージュ、絵画、資料などから、「写真」というメディアを多層的に読み解きます。

《関連イベント》

○サンデー・トーク

内容・学芸員が展示作品から1点を選んで解説します。

費用・MOMAS コレクション観覧料が必要です。

とき・5/10(日)15:00～15:30 / 担当学芸員・佐原しおり

作品・倉田次次郎《少年写真模写》1890年

## 一般展示室(地階)

※日程・内容は変更される場合があります。最新の情報は各主催者へお問い合わせください。

※展示により開室時間(特に最終日の終了時刻)が異なります。

◆3/31(火)～4/5(日)

春のCAF.N2020-さいたま国際芸術祭 美術と街巡り事業一(日本画、水彩ほか)……………一般展示室1

埼玉現展(水彩、油彩、写真)……………一般展示室3・4

◆3/31(火)～4/12(日)

第3回透明水彩ROMAN展覧会(水彩)……………一般展示室2

◆4/7(火)～4/12(日)

第48回主体美術武蔵野作家展(油彩)……………一般展示室1

第16回群炎埼玉支部展(日本画、水彩、油彩、彫刻、工芸、写真ほか)……………一般展示室3

第31回溪水会展(日本画、水彩、油彩、書、水墨画、墨絵画、ちぎり絵)……………一般展示室4

◆4/14(火)～4/19(日)

第36回さいたま関秀100選展(書)……………一般展示室1

阿佐見昭彦写真展2020《記憶する眼II》(写真)……………一般展示室3

彩画展(日本画、水彩、油彩)……………一般展示室4

◆4/21(火)～4/26(日)

第14回フォト・トルトゥーガ写真展(写真)……………一般展示室2

◆4/23(木)～4/26(日)

第44回埼玉女流工芸展(工芸)……………一般展示室1

◆4/28(火)～5/3(日)

第24回(公募)埼玉二科展(油彩、彫刻、デザイン)……………一般展示室1～4

◆5/26(火)～6/17(水)

第70回記念埼玉県美術展覧会(県展)(日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真)……………一般展示室1～4ほか

## 斎藤与里のゆるい絵

埼玉県加須市に生まれ、生涯、独自の画風を追究するとともに、美術の紹介者、評論家としても大きな足跡を残した洋画家、斎藤与里(1885-1959)。与里は時代を追うごとに作風を変化させた画家ですが、中でも一目で与里と分かる、素朴な童画を思わせる晩年期の表現は、個性がひとつ突き抜けています。率直に言えば、ゆるゆるです。晩年のゆるっとした作品をどのように位置づけていくかということは、与里の画業を検証する上で重要な問題ですが、ここではその一つのヒントとすべく、大正期の作例を紹介いたします。

ヨーロッパ留学から帰国した与里は、同時代の西洋美術を一通り吸収すると、日本や東洋の古い絵画、特に南画や禅画への関心を深めていきます。この時期、自己の内面を描き出す表現主義の先がけとして、多くの画家がこのような伝統的な絵画を再評価するようになりました。《塩原錦秋》はこうした傾向を代表する作品です。

まず目をひくのは、カンヴァスに油彩画で描かれていながら、額装ではなく、屏風に仕立てられていることでしょうか。屏風の下部には人や動物を図案化した装飾的な彫刻が施されています。画面に目を向けると、前景に樹木を配し、画面に水平に流れる川を挟んで後景に風景を描く構図は伝統的な山水画に基づいていることに気がつきます。遠くにまで連なる山やその隙間からのぞく雲は、実景を超えて遙か遠くの桃源郷へと私たちを誘っているようです。



斎藤与里《塩原錦秋》1918年、埼玉県立近代美術館蔵

晩年の作品《沼部の朝》を見てみましょう。船に乗ったり、あひるを追いかけていたりしている人々はいかにもほのぼのとした情景を漂わせています。平面的に塗られた柔らかい色調は、パステルやクレヨンタッチにも似ています。ゆるい絵代表といってもよい、味わいのある作品ですが、同時に、細部にまで綿密に気が配られていることも見逃せません。空や水面のゆらぎをあらわす微妙な色調の変化や、前景と後景の間を効果的につなぐ2羽の鳥といった細かな仕掛けによって、朝焼けの一瞬を印象的に描きとめているのです。



斎藤与里《沼部の朝》1951年、埼玉県立近代美術館蔵

与里の晩年期の作品は、大正期に吸収した江戸時代の南画や禅画の表現、特に、何ものにもとられない自由な精神を内包しているように思われます。もしかすると与里は、こうした精神に、近代を乗り越えていく可能性を見出していたのかもしれませんが。青年期に西洋の表現主義の洗礼を受けた与里は、その後も様々な芸術思潮を咀嚼しながら、自己の画風を追究しました。日本において油絵で何をどのように表現すべきなのか、という大きな課題に向き合い続けた画家が到達した境地として、こうした「ゆるい絵」を捉え直すことができるのではないのでしょうか。

与里の仕事は、洋画家としての画業のみならず、挿絵や装丁の仕事、文学関係者との交流、美術評論家や教育者としての活動など、多面的に検証することができます。MOMAS コレクション第1期「特集:斎藤与里」では、当館のコレクションを中心に主要な作品や資料から画業をたどり、その個性をひもとくさやかな機会になればと考えています。(H.S.)

\*本稿執筆にあたり、以下の文献を参照しました。  
『素朴美の系譜 江戸から大正・昭和へ』展図録、2008年、渋谷区立松涛美術館  
『南画って何だ?! 近代の南画-日本のこころと美』展図録、2008年、兵庫県立美術館

## ミュージアム・ショップおすすめ商品

ミュージアムショップから、椅子をご紹介します。といっても未就学児向けの小さい椅子です。ダンボール素材で、ヒツジとウシの形をしています。型抜きされたダンボールを組み立てて作ります(のり・はさみは不要)。お子さんと一緒に楽しく組み立ててみませんか(M.N.)



組み立てサイズ W360×D200×H220 対象年齢3～6才(未就学児) 適応体重30kgまで ¥2,000(税別)

交通・JR京浜東北線北浦和駅西口より徒歩3分(北浦和公園内)。JR東京駅、新宿駅から北浦和駅まで、それぞれ約35分。

※当館に来館者専用の駐車場はありませんが、提携駐車場「三井のリパーク 埼玉県立近代美術館東」では

駐車料金の割引があります(企画展観覧で300円引き、MOMASコレクション観覧で100円引き)。

団体バスは事前にご相談ください。お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたしますが、

台数に限りがありますので予めご了承ください。



所在地・〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤9-30-1

TEL・048-824-0111 FAX・048-824-0119 URL・https://pref.spec.ed.jp/momas/

代表メール・p240111@pref.saitama.lg.jp

開館時間・10:00～17:30(展示室への入場は17:00まで)

休館日・月曜日(5/4は開館)、5/19～5/22 入館料・無料 観覧料・上記をご覧ください。

